

The logo for GSI Creos, featuring the text "GSI Creos" in white on a teal background. The background of the entire page is white with a large teal vertical bar on the left side, which has several horizontal teal bars of varying lengths extending from it.

GSI Creos

Produce the Future

次代を創る

第81期 中間株主通信

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで

株式会社 GSIクレオス

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、当社は第81期中間期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の営業を終了いたしましたので、ここに営業の概況と決算のご報告を申し上げます。

当社グループは、上半期におきましては、期初に掲げた目標を概ね達成することができました。

下半期におきましても、収益の確保と財務基盤の強化を進め、一日も早い復配を目指してまいりますので、株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ格別のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

取締役社長

深瀬佳洋

第81期中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、アジア新興国の需要拡大を背景とした輸出の増加や政府の経済対策の効果もあって緩やかな回復基調が続いたものの、欧米経済の減速懸念に加え、急激な円高の進行や株価の下落を受け、先行きに不透明感が強まりました。

このような状況下、当社グループは、収益性の向上と海外売上高の拡大方針のもと、目標利益の確保ならびに経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

当中間期の業績は、アジア向け繊維関連取引が拡大したことから、売上高は前年同期比2,222百万円、4.0%増収の57,787百万円となりました。

売上総利益は、利益率が0.7ポイント低下したことから、前年同期比130百万円、2.0%減益の6,542百万円となりました。営業利益は、販売費が減少したことから、前年同期比67百万円、6.8%増益の1,052百万円、経常利益は前年同期比106百万円、15.1%増益の814百万円、中間純利益は前年同期比124百万円、25.9%増益の608百万円となりました。

通期の見通し

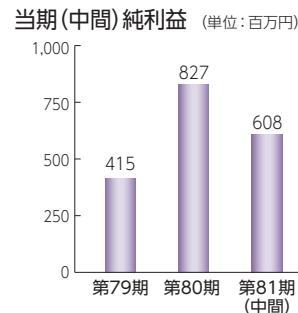
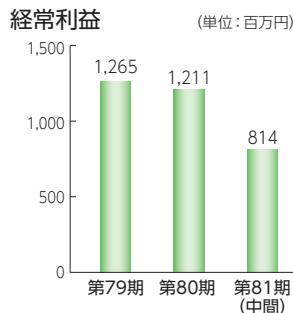
下半期の経営環境につきましては、世界経済の減速が懸念されるとともに、円高や株価低迷の長期化に加え、エコカー補助金の終了など政府の経済対策の効果が一巡したことにより個人消費を中心に景気が鈍化するものと予想されます。

こうした状況下、当社グループは、引き続き、収益性の向上と海外売上高の拡大に加え、リスクマネジメントの強化を基本方針とし、これらの実行を通じ、収益の確保と事業構造の更なる改善をはかってまいります。

通期連結業績につきましては、売上高114,500百万円、営業利益1,700百万円、経常利益1,300百万円、当期純利益900百万円を見込んでおります。

なお、当社独自の構造であるカップ積層型カーボンナチューブ『カルベール』を用いたナノテクノロジー事業につきましては、一定の成果があらわれているスポーツ分野を中心とする炭素繊維強化プラスチック(CFRP)および特殊塗料に加え、燃料電池用途に経営資源を集中し、事業パートナーとともに引き続き事業化に取り組んでまいります。

業績の推移(連結)



繊維関連事業 主要商品：繊維原料、テキスタイル、レッグ・インナー・アウトウェア 他



(売上高 46,312百万円 前年同期比 1.7%増)
(営業利益 941百万円 前年同期比 12.3%減)

- 機能性の高いインナー用原糸および生地が取引が大幅に伸長しました。また、消費者ニーズを踏まえた企画提案型の婦人ファンデーション取引も堅調に推移しました。しかしながら、肌着などの実用衣料は、消費者の低価格志向や買い控えに加え、猛暑の影響により低迷しました。
- アウト用生地は韓国や米国向けの輸出取引が増加しました。一方で、婦人アパレル事業は直営店における販売強化に努めましたが、消費不振の影響を受け苦戦を強いられました。また、OEM取引は、紳士・婦人ともにアパレルメーカー等の販売不振に加え、中国における生産コストの上昇により収益が低迷しました。



非繊維関連事業 主要商品：機械、化成品、理化学機器、ホビー 他

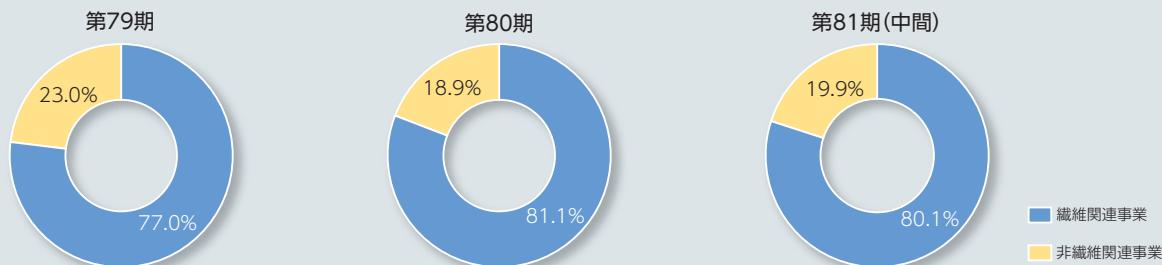


(売上高 11,474百万円 前年同期比 14.2%増)
(営業利益 409百万円 前年同期比 42.2%増)

- 樹脂などの工業用材料の取扱いは、生産調整の進展や設備投資の回復から増加しました。特に、エレクトロニクス関連機材や米国における化学製品の取扱いは、半導体市況の回復に支えられ大幅に増加しました。
- プラモデル用塗料の取扱いはほぼ前年並みでしたが、一部の塗装用器具の取扱いは他用途への展開により伸長しました。



売上高構占比



■ 「東京ベイ物流センター」稼働 — 物流機能の強化に向けて —

当社は本年4月より千葉県船橋市において、新たな物流拠点となる「東京ベイ物流センター」の稼働を開始しました。この物流センターの設立目的は、グンゼ(株)関連商品における物流体制の効率化を実現するとともに、繊維事業部門を中心とするグループの物流体制を集約・強化することにあります。

同物流センターの稼働にあたり、物流設備を一新したことで、出荷業務のスピードアップ、精度の向上およびコスト低減化を実現しました。例えば、垂直搬送機の新設によって1階への搬送がスムーズになり、商品の移動スピードが大幅にアップするとともに、発注データを活用して出荷先ごとに仕分けするソーターシステムを導入した結果、大量の商品を短時間かつ高い精度で仕分けすることが可能となりました。さらに、値札発行機を導入したことで、様々なバーコードに対応する値札を年間約120万枚発行することが可能となり、従来の外注発行に比べ、コストが削減されました。

今後は、婦人アパレルを皮切りに保管・配送を外部に委託している繊維事業部門の扱い商品についても対象を広げ、「東京ベイ物流センター」に順次集約する予定にしております。当社は商社機能強化の一環として独自の物流システムを構築し、より効率的なサプライチェーンの実現に取り組んでまいります。



外観



ソーターシステム

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前期
	平成22年9月30日現在	平成22年3月31日現在
流動資産	48,462	42,968
現金及び預金	10,495	9,838
受取手形及び売掛金	29,303	24,709
棚卸資産	8,003	7,777
その他	660	642
固定資産	10,531	11,001
有形固定資産	5,625	5,688
無形固定資産	94	81
投資その他の資産	4,810	5,232
資産合計	58,994	53,970
流動負債	46,388	41,448
支払手形及び買掛金	22,093	16,869
短期借入金	21,707	21,747
その他	2,587	2,830
固定負債	1,902	2,056
長期借入金	521	582
その他	1,381	1,474
負債合計	48,291	43,504
株主資本	11,914	11,306
資本金	7,186	7,186
資本剰余金	908	908
利益剰余金	3,872	3,264
自己株式	△53	△52
評価・換算差額等	△1,302	△932
少数株主持分	90	90
純資産合計	10,702	10,465
負債純資産合計	58,994	53,970

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成22年4月1日～ 平成22年9月30日	平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
売上高	57,787	55,564
売上原価	51,245	48,892
売上総利益	6,542	6,672
販売費及び一般管理費	5,489	5,686
営業利益	1,052	985
営業外収益	123	149
営業外費用	362	428
経常利益	814	707
特別利益	5	0
特別損失	47	1
税金等調整前中間純利益	771	707
法人税等	162	223
少数株主利益	1	0
中間純利益	608	483

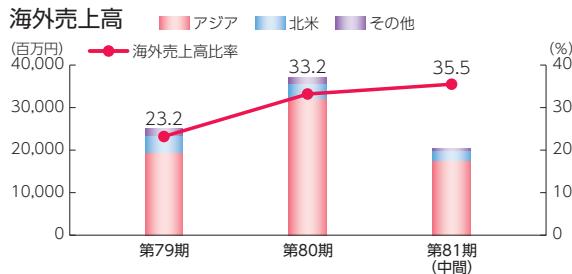
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

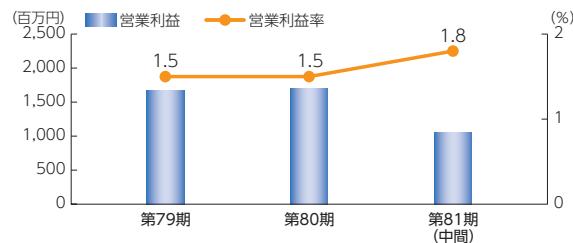
科 目	当中間期	前中間期
	平成22年4月1日～ 平成22年9月30日	平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	785	1,533
投資活動による キャッシュ・フロー	16	△99
財務活動による キャッシュ・フロー	△106	△787
現金及び現金同等物の 中間期末残高	10,495	9,073

業績指標(連結)

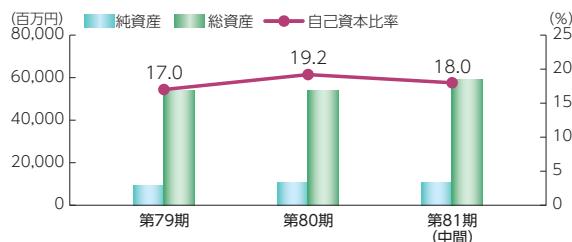
海外売上高



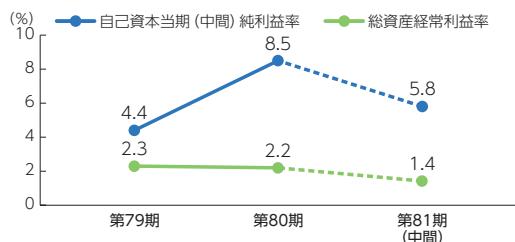
営業利益(百万円) / 営業利益率 (%)



純資産(百万円) / 総資産(百万円) / 自己資本比率 (%)



自己資本当期(中間)純利益率(%) / 総資産経常利益率 (%)



単体財務諸表

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前期
	平成22年9月30日現在	平成22年3月31日現在
流動資産	37,000	34,137
固定資産	11,432	11,877
資産合計	48,433	46,014
流動負債	38,261	35,690
固定負債	1,235	1,297
負債合計	39,497	36,987
純資産合計	8,935	9,027
負債純資産合計	48,433	46,014

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成22年4月1日～平成22年9月30日	平成21年4月1日～平成21年9月30日
売上高	43,703	43,171
売上総利益	4,387	4,519
販売費及び一般管理費	4,092	4,162
営業利益	295	357
経常利益	148	240
中間純利益	209	230

会社概要 (平成22年9月30日現在)

■会社の概要

会社名 株式会社GSIクレオス
本社 東京都千代田区九段南二丁目3番1号
設立 1931年10月31日
資本金 71億86百万円
従業員数 519名(連結)
営業所 本社(東京都千代田区)
大阪支店(大阪市中央区)
柳橋営業所(東京都台東区)
五反田営業所(東京都品川区)
福岡営業所(福岡市博多区)
北陸営業所(福井県福井市)
ナノカーボン開発センター(川崎市川崎区)
海外拠点 13ヵ所(現地法人および駐在員事務所)

■連結子会社

国内
大三紙化工業株式会社
株式会社セントラル科学貿易
株式会社オフィス・メイト
株式会社ジーマーク
株式会社いずみ
丸一産業株式会社

海外
GSIホールディング社
GSIアメリカ社
GSI香港社
GSI上海社

■役員

取締役会長	加藤元信
代表取締役社長	深瀬佳洋
常務取締役	宮島浩二
常務取締役	宮崎満
取締役	松下康彦
取締役	吉永直明
取締役	田中正道
取締役	中山正輝
常勤監査役	石川均
監査役	姉崎瑛一
監査役(社外)	山口健治
監査役(社外)	岩田紀治

執行役員

浅野幹雄	沖田陽二
荒木靖司	

株式の状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式の総数 64,365,477株
(自己株式284,238株を除く)
株主数 7,497名

大株主(上位10名) (平成22年9月30日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
グンゼ株式会社	9,321	14.48
株式会社みずほ銀行	3,182	4.94
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,172	4.93
日本生命保険相互会社	2,586	4.02
東レ株式会社	1,982	3.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,757	2.73
日本興亜損害保険株式会社	1,119	1.74
日本証券金融株式会社	974	1.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	725	1.13
ジェーピー モルガン チェース バンク 385107	702	1.09

(注) 持株比率については、自己株式(284,238株)を控除して算出し、小数点以下第3位を四捨五入して表示しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主
確定日 3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所
公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <http://www.gsi.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

